

# 就学前施設における避難訓練の手引き (洪水編)



徳島県 県土整備部 水管理政策課 水災害対策室

## はじめに

日本は、その位置や地形、地質、気象などの自然的条件から、台風や豪雨、地震などの自然災害が発生しやすい環境にあります。近年は特に、気候変動に伴う豪雨災害が頻発化・激甚化し、毎年のように各地で甚大な被害が発生しています。

そのような中、幼稚園、保育所、認定こども園その他の就学前の児童が利用する施設（この手引きにおいて「就学前施設」という。）においては、あらゆる災害から児童・職員の命を守るため、一層の取組が必要となっています。

災害が発生した時に、児童が大人の指示を聞き、落ち着いて避難行動を取れるようにするとともに、職員が迅速かつ的確な判断により児童の命を守り、無事保護者に引き渡すことができるようにするためには、日頃からの準備や継続した避難訓練により、備えることが重要です。

このことから、徳島県ではこの度、豪雨災害を想定した「就学前施設における避難訓練の手引き（洪水編）」を作成いたしました。洪水の発生は、気象情報などである程度予測できるため、的確に備えることで、被害を防ぐことができます。

避難訓練は命に関わる大切な訓練であるという認識を、児童を含む関係者全員で共有し、真剣に取り組む必要があります。この手引きを参考に、各施設の特性に応じた避難訓練を計画・実施していただき、実効性の高い避難行動を身につけることで、施設の防災力の強化を図っていただきますようお願いいたします。



# 避難訓練の実施に向けて

作成された避難確保計画を基に、次の3つのステップに沿って避難訓練を行います。

## 【ステップ1】避難訓練の準備 →P.2

- (1) 想定する災害や訓練の種類、避難訓練の参加者、日時を決定します
- (2) 施設が有する災害リスクを踏まえ、訓練で想定する災害のシナリオを作成し、タイムスケジュール(避難訓練の流れ)を作成します
- (3) 避難訓練の時に必要な情報を集めます
- (4) 避難訓練の詳細内容を決定します
  - ① 訓練参加者の役割を決めます
  - ② 当日の流れ、避難方法などを決めます
  - ③ アクションカードを作ります
  - ④ 避難訓練を実施するにあたり、必要な資器材を準備します
  - ⑤ 利用児童と保護者には、事前に避難訓練の説明をして、避難に対する理解を深めておきます

訓練の時は、児童の健康状態に注意し、事故やケガが起こらないように十分に注意しましょう

## 【ステップ2】訓練の実施 →P.11

- (1) 事前説明の時間を設け、参加者間で情報を共有します
- (2) 避難訓練を開始します  
進行係は、シナリオやタイムスケジュールに沿って状況を付与します
- (3) 避難確保計画で定めた避難場所に児童・保護者を避難誘導します
- (4) 避難訓練の内容を映像や写真に記録します  
(避難に要した時間の把握やふりかえりに活用します)



## 【ステップ3】ふりかえり →P.13

- (1) 避難訓練の記録を基に、参加者間でふりかえりを行います
- (2) 参加者にアンケート調査や個別のヒアリングなどを行い、意見を集めます
- (3) 避難訓練で見つかった課題などを基に、避難確保計画を見直します

# 【ステップ1】 避難訓練の準備

1

想定する災害や訓練の種類、避難訓練の参加者、日時を決定します

項目	決定事項(例)	決定にあたっての留意点
想定する災害	〇〇川の 洪水による災害	洪水ハザードマップや過去にあった洪水被害を参考にしてください。大雨などにより近くの河川で水位が上昇し、やがて氾濫が発生し、施設周辺が浸水することを想定してください。
訓練の種類	立退き避難訓練 屋内安全確保訓練	訓練の種類としては、施設外に避難する立退き避難訓練や、施設の上階に移動する屋内安全確保訓練以外に、図上訓練や避難経路を確認する訓練などがあります。
避難訓練の参加者	施設管理者 保育士等・児童	状況により児童の全員参加か一部参加を検討してください。また、保護者や、協力いただける近隣住民の方の参加も検討してみてください。
避難訓練の日時	午前・午後 春夏秋冬	洪水の避難訓練の実施は、訓練成果を実際の避難に活かすことができるよう、原則として、大雨による災害が発生する梅雨期、台風期前の11月頃から5月頃の実施を検討しましょう。また、季節により児童の着衣が変わることで避難の準備時間が変わることにも注意してください。

2

施設が有する災害リスクを踏まえ、訓練で想定する災害のシナリオを作成し、タイムスケジュール(避難訓練の流れ)を作成します

洪水のシナリオでは、台風などにより、近くの河川の水位が上がり、やがて洪水氾濫が起こることを想定します。主な河川では、危険の度合いを判断するための水位が河川ごとに定められています。まずは、近くの河川が、どの水位になったとき、どのような情報が発信されるのか調べてみましょう。

その後、避難訓練で決められた時間内で水位が上がり洪水氾濫が起こるまでのシナリオを作成してみましょう。

徳島県HPより「洪水タイムライン(案)」を検索



## 【洪水のシナリオの例】

[資料編 P〇〇参照]

- 低

危険度

高

  - ① 【河川氾濫の発生 2 日前】 台風〇〇号発生 北上に伴い上陸の恐れ 徳島地方気象台発表の早期注意情報において警戒級の可能性「高」
  - ② 【氾濫発生4時間前】 ●●川水防団待機水位超過／大雨・洪水注意報発表
  - ③ 【氾濫発生3時間前】 ●●川氾濫注意水位超過
  - ④ 【氾濫発生2時間前】 ●●川避難判断水位超過／大雨・洪水警報発表／「高齢者等避難」発令／上流◎◎ダム放流決定／
  - ⑤ 【氾濫発生1時間前】 ●●川氾濫危険水位超過／「避難指示」発令／上流◎◎ダム放流△△t/s
  - ⑥ 【氾濫発生0時間前】 ●●川氾濫発生／「緊急安全確保」発令
  - ⑦ 【氾濫発生2時間後】 ●●川氾濫注意水位を下回る／雨・風ともに弱まる／大雨・洪水注意報解除

【避難訓練のイメージ】

段階的に発表される防災情報と、施設の主な行動を基に、避難訓練のそれぞれの場面をイメージしてみましょう。

防災情報など

避難訓練

警戒レベル (相当)	避難情報	雨の様子	防災 気象情報	川の状況		施設の 主な行動	避難訓練 の フェーズ (段階)	避難訓練時の施設の行動 (例)
				水位の 状況	洪水予報			
1	—		早期警戒 情報		—	災害への 心構えを 高める	1 <b>(事前説明)</b>	現在の災害状況(想定)の 確認と情報の共有 (台風接近、〇〇川水位 上昇中 など)
2	—	災害 の起こる おそれ 	大雨注意報 洪水注意報	水防団待機 水位超過  氾濫注意 水位超過 	氾濫注意 情報	避難行動 を確認 する	2 <b>警戒避難準備</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川の水位や防災情報 などの情報収集</li> <li>保護者へお迎えの連絡</li> <li>避難準備</li> <li>避難経路・持ち出し品 などの確認</li> </ul> 
3	<b>高齢者等避難</b>	重大な災害 の起こる おそれ 	大雨警報 洪水警報	避難判断 水位超過 	氾濫警戒 情報	<b>児童の 避難開始</b>	3 <b>児童避難</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難開始の決定</li> <li>児童の避難開始</li> <li>逃げ遅れた児童の確認</li> <li>引き続き情報収集</li> </ul> 
4	<b>避難指示</b>	重大な災害の 起こるおそれ が著しい 	—	氾濫危険 水位超過 	氾濫危険 情報	<b>全員 避難開始</b>	4 <b>職員避難</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難開始の決定</li> <li>張り紙をして全員避難</li> </ul> 
—	※警戒レベル5の避難情報である「緊急安全確保」は、何らかの災害が すでに発生している可能性が高い状況です。警戒レベル4までに、 必ず避難を完了するようにしましょう。						— <b>ふりかえり</b>	終了・ふりかえり 

「雨の様子」イラストの出典：気象庁ホームページ「リーフレット」「雨と風（雨と風の階級表）」

### 3

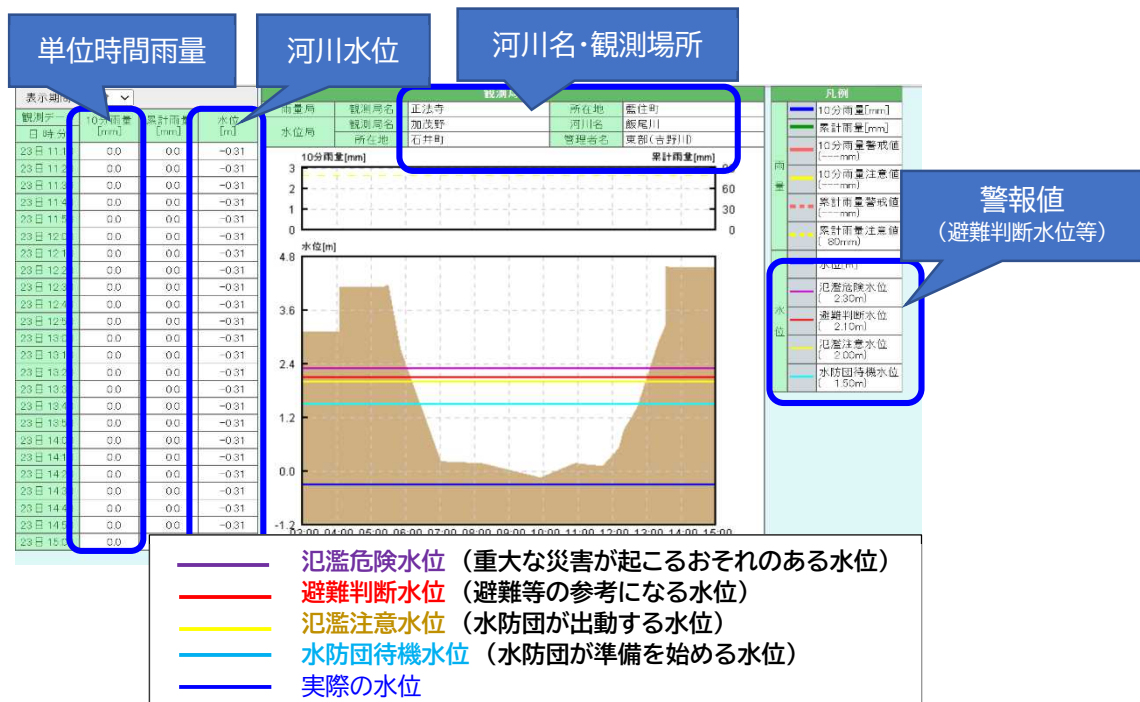
## 避難訓練の時に必要な情報を集めます

避難訓練の時には、避難に必要な情報は何か、どうやって情報を集めるか、情報の集め方についても訓練しましょう。特に、河川の水位や流量などは、パソコンやスマートフォンから、必要な情報がすぐ取れるよう、検索方法や、情報の見方など、普段から対応できるようにしておきましょう。[資料編 P18 参照]

### 【避難訓練の時に必要な情報】

情報	情報収集先
気象情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>■気象庁ホームページ(天気、雨雲の動き、今後の雨)</li> <li>■テレビ・ラジオ・インターネット等 (NHK データ放送)</li> <li>■すだちくんメール</li> </ul>
洪水ハザードマップ (洪水の範囲、浸水する深さなどの情報)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■徳島県「<a href="#">水防・砂防情報マップ</a>」</li> <li>■徳島県「<a href="#">河川の洪水浸水想定区域図</a>」</li> <li>■市町村ごとの洪水ハザードマップ</li> </ul>
近くの河川の水位・雨量等の防災情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>■徳島県「<a href="#">徳島県水防情報</a>」 <a href="#">河川水位情報</a></li> <li>■国土交通省「<a href="#">川の防災情報</a>」等</li> </ul>
河川上流にあるダムの放流量	<ul style="list-style-type: none"> <li>■徳島県「<a href="#">徳島県水防情報</a>」 <a href="#">ダム情報</a></li> </ul> <p>※上流にあるダムからの放流により、河川の水位が急激に上がる場合があります。ダムからの放流量についてもチェックしましょう。</p>
避難情報 (高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■市町村からの防災行政無線</li> <li>■テレビ、ラジオ、インターネット、緊急速報メールなど</li> </ul>

### 【参考】「徳島県水防情報 河川水位情報」からの水位等の見方



# 4

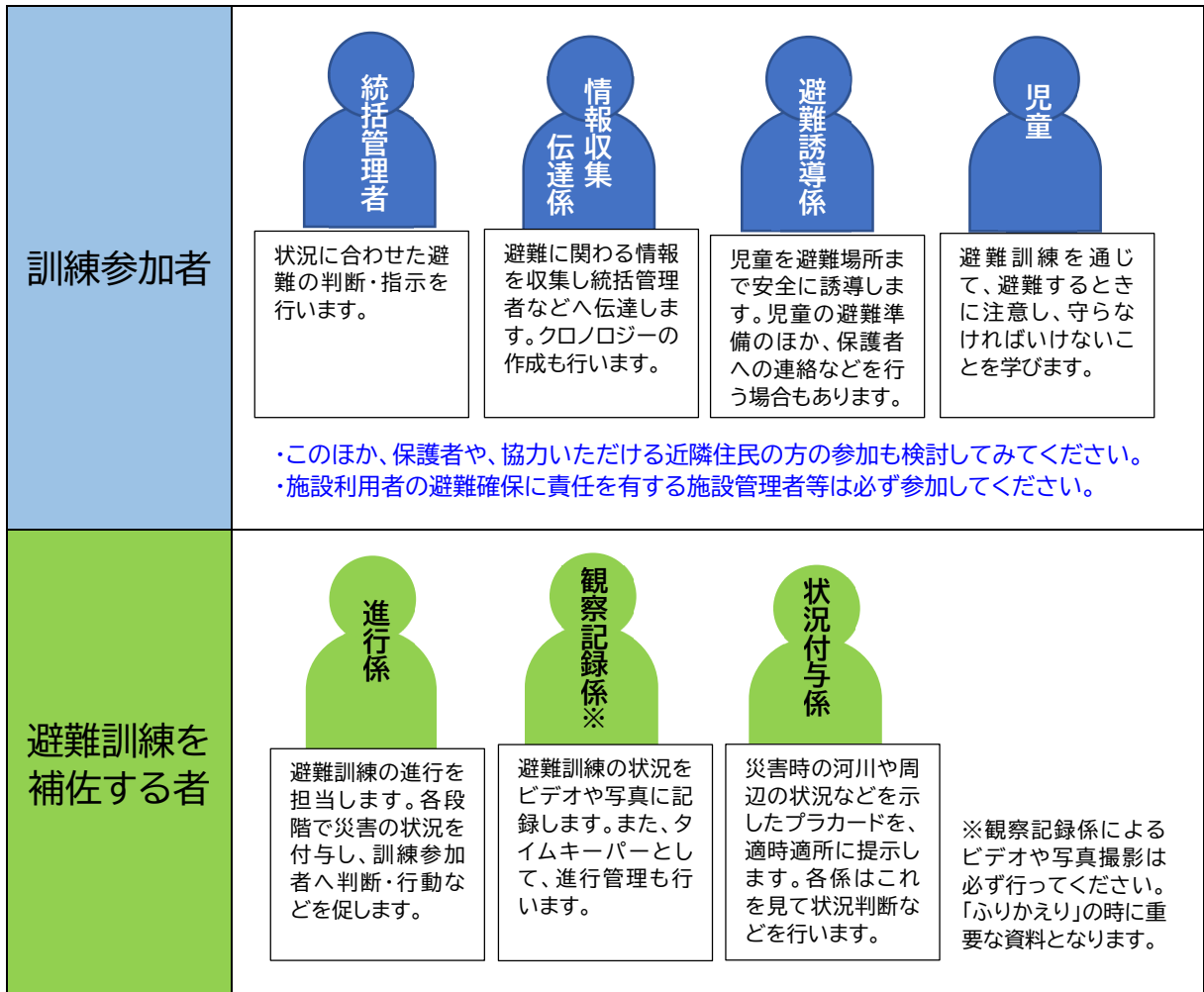
## 避難訓練の詳細内容を決定します

### ①訓練参加者の役割を決めます

- ・原則として、避難確保計画に定めた組織の構成や役割分担、人員配置の基で訓練を実施しましょう。
- ・訓練により、避難確保計画に定めた体制に問題がないか、児童の避難を円滑に実施できるかを確認することが必要です。



### 【役割分担の具体例】

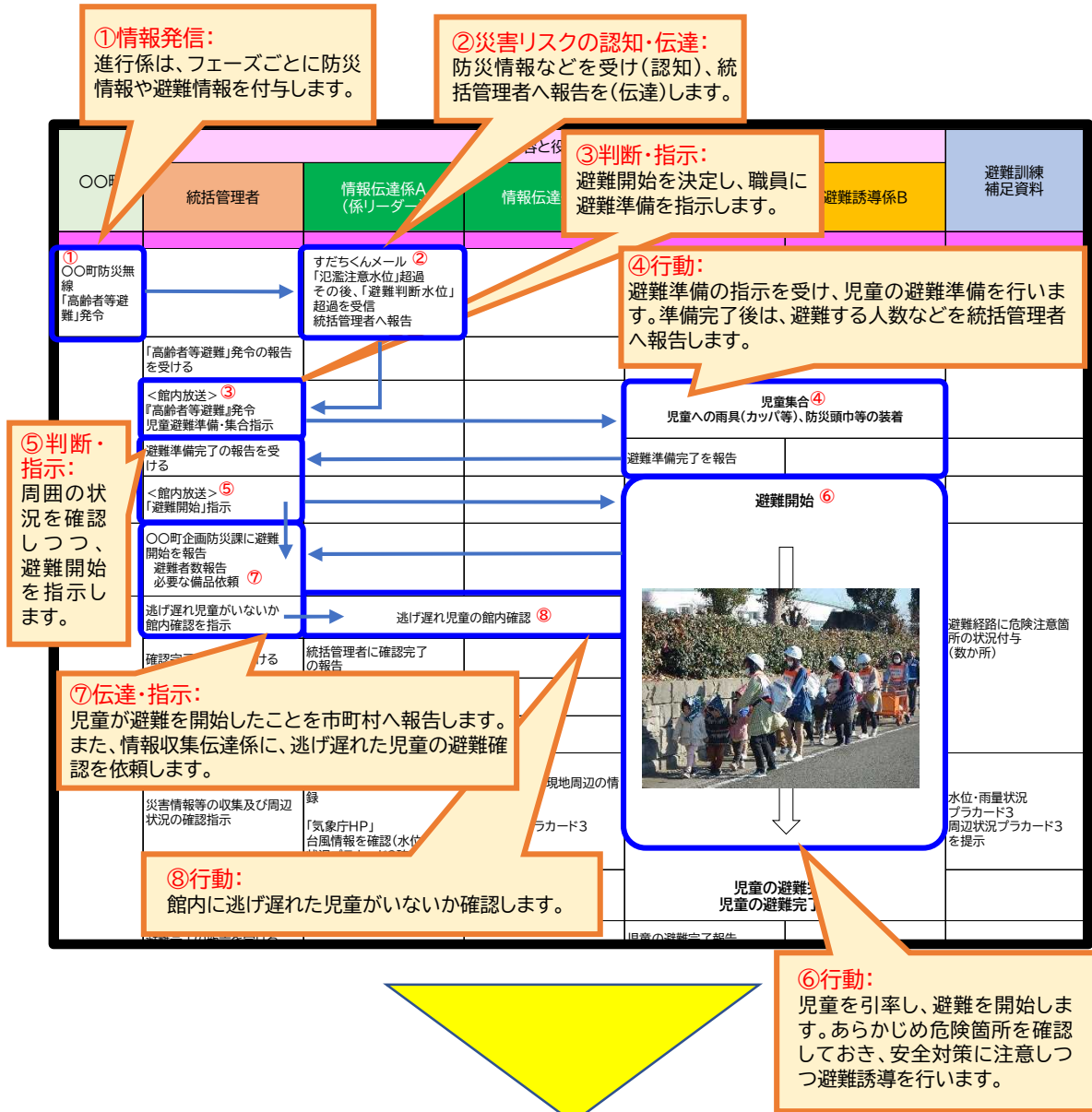






## 【フェーズ3(児童避難)】の書き込み例

フェーズ3では、高齢者等避難が発令され、児童は避難を開始します。  
統括管理者や情報収集伝達係は施設内で、引き続き情報収集や保護者への連絡を行います。



次の行程に続いていきます

### ③アクションカードを作ります

アクションカードは、限られた時間と人員で、それぞれに与えられた役割を、適切に無駄なく行動するための「活動指示書」です。

全体のシナリオやタイムスケジュールが決まったら、それぞれの役割ごとに、アクションカードを作りましょう。

#### 【アクションカードの作り方】

アクションカードには、役割担当の部分(各自がやるべきこと)のみを記入します。

#### アクションカードの記入例

■まず、担当する部署や、基本的な役割を記入します。

避難誘導係		
担当者氏名	組	内容
〇〇 〇〇	すみれ	洪水のとき、安全に避難する
【アクション内容】		
1. 「避難準備」が出たら <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童に雨具を着せる</li> <li>● 持ち出し品確認(名簿、重要データ等)</li> <li>● 保護者へ一斉メール ⇒お迎えのお願いと万一の場合の避難先と連絡先</li> <li>● 人数確認・報告 ⇒〇〇先生に報告</li> </ul>		持ち出し品は手軽で身軽に
2. 「避難開始」が出たら(徒歩の場合) <ul style="list-style-type: none"> <li>● 児童を〇〇教室に集合/人数確認・報告 ⇒〇〇先生に報告</li> <li>● 避難開始 一列になって電車</li> <li>● 危険注意!(橋や水路・車の通行・雨風の強いところ)</li> <li>● 児童への声かけ</li> </ul>		水が溜まっていると深さがわからない こわくないよ おちついて
3. 「避難場所」へ到着したら <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人数確認</li> <li>● 児童の体調確認</li> <li>● 避難完了の報告 ⇒〇〇先生に報告</li> <li>● 保護者へお迎えの一斉メール(安全になってからお迎えを)</li> </ul>		
連絡先		
〇〇先生 携帯_____ / △△先生 携帯_____		
第1避難先 〇〇小学校 連絡先_____		
第2避難先 〇〇中学校 連絡先_____		
連絡状況( 時 分 へ連絡)		

■それぞれの「フェーズ」(段階)ごとに、そのとき、何をすべきか、具体的な行動(アクション)を順番に記入します。

■文書は簡単・簡潔にし、役割担当者がカードを読めば、必要な行動がすぐに分かるようにしましょう。

■行動(アクション)の中で、特に注意すべきことや、気を付けなければいけないことがあれば、そのポイントを押さえておきましょう。

■連絡・報告先や避難先、いつ連絡したかなどが、すぐにわかるようにしておきましょう。

○アクションカードはいきなり「完成品」をつくる必要はありません。

アクションカードの作成⇒避難訓練で検証⇒避難確保計画の見直し を繰り返すことによって、それぞれの施設の状況に合ったアクションカードに近づけていきましょう。

○このカードは、携帯するか、常に身近に見えるようにして、緊急時に備えましょう。

## 【役割ごとに求められる訓練のポイント】

役割ごとに求められる訓練のポイントを以下に示しました。  
これらのポイントを踏まえ、タイムスケジュールを確認しましょう。



### ●訓練参加者は、自分の役割を確認する

タイムスケジュールとアクションカードを作成したら、全体の流れと、自分の役割(いつ、どこで、だれが、何を  
する)を確認しましょう。

例)

いつ→避難準備の放送があったとき  
どこで→お遊戯室で  
だれが→避難誘導係が  
何を→児童に雨具を着せる

### ●訓練参加者は、あらかじめ伝えるセリフを決めておく

それぞれの場面で、あらかじめセリフを決め、「何を伝えるか」「何を聞くか」「どのような行動をとるか」を参加者同士で確認しておきましょう。

訓練に慣れるまでは、全員で読み合わせをするなど、事前に避難訓練の流れを確認しておきましょう。  
伝えるセリフを決めておけば、スムーズに進めることができます。

### ●統括管理者は、次の行動を考えながら訓練を進める

統括管理者には、迅速で的確な判断と指示が求められます。避難訓練の際は、常に先手、先手を考えながら判断・指示を行いましょう。また、全体を見渡し、うまく機能できているか確認しながら訓練を進めましょう。

避難訓練ではタイムスケジュールにより避難開始の時間が決まっていますが、実際に災害が発生した時には、何によって避難判断し、避難開始を指示するのかを考えながら訓練に取り組みましょう。

### ●情報収集伝達係は、災害情報の入手手順を確認する

テレビ・ラジオ、防災無線以外に、インターネットを利用することで、災害情報などを入手することができます。関連する Web サイトなどからスムーズに必要な情報を得ることができるよう、普段から確認する練習をしておきましょう。



河川の水位や気象情報などの災害情報を入手する Web サイトは、「お気に入り」に登録しておく便利です。  
河川の水位を平常時や少し雨が降った時、大雨の時などで比較しておくことで、その特徴を知ることができます。(このぐらいの雨が降ると、水位はこれぐらい上がるなど)

### ●避難誘導係は、安全確保を第一に行動する

児童の安全確保を第一に考え行動してください。  
徒歩で避難する場合は、避難経路の途中で危険となる箇所(水路や見通しの悪い曲がり角など)がないか、事前に現地を見て確認しておきましょう。



水路などは、雨が降ると水位が上がり、普段の状況と大きく変わる場合があります。  
事前確認するときは、災害時の状況を想像しながら確認しましょう。  
また、徒歩で避難する場合は、避難場所までの経路や所要時間を調べておきましょう。  
車両で避難する場合、車両の手配方法やタイミングなどを確認しておきましょう。

#### ④避難訓練を実施するにあたり、必要な資器材を準備します

避難する際に必要な持ち出し品などについては、避難確保計画に従い準備しましょう。

##### 【避難訓練に必要な資器材 例】

担当係	避難訓練に必要な資器材
<共通>	タイムスケジュール ビデオ・カメラ ストップウォッチ ビブス
<避難誘導係>	危険箇所を示す資料 土のう・水のう
<情報収集伝達係>	ホワイトボード、マーカー、付箋 水位・雨量など記録用紙 災害状況付与資料 (河川水位・雨量・周辺状況など)

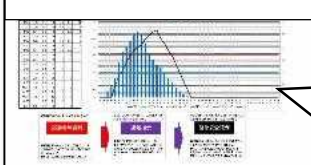
「ふりかえり」のとき、訓練の様子や避難にかかった時間などを確認します。

危険箇所を示す資料



避難経路の危険箇所がどのような状況になっているか、その場で提示します。

水位・雨量など記録用紙



雨量や最寄りの河川の水位を記録することで、避難するタイミングを知ることができます。避難訓練で、雨量や水位を確認・記録する方法を身につけましょう。

土のう



避難車を使用するとき、児童を乗せる代わりに土のうや水のうを積むなどの方法もあります。



撮影した動画などを確認するとき、どの役割の人が何をしたか、わかりやすく判別することができます。

#### ⑤児童には、事前に避難訓練の説明をして、避難に対する理解を深めておきます

- ・児童の年齢に合わせてわかりやすく話しましょう。
- ・興味や関心を持ってもらうために、絵本やペープサート、パネルシアターなどを利用し、児童に避難の重要性を伝えましょう。



## 【ステップ2】 訓練の実施

### 1

#### 事前説明の時間を設け、参加者間で情報を共有します

- 【フェーズ 1(事前説明)】では、進行係が、避難訓練の全体の流れと、河川の水位や雨の降り方など、訓練の前提となる「現在の状況」を説明し、参加者全員がイメージを共有できるようにしましょう。
- 訓練参加者は、それぞれ役割が分かるよう、担当係名を記したビブスを着用しましょう。
- 観察記録係は、事前説明から避難訓練終了まで避難訓練の内容や経過時間を記録しましょう。



ビブスの着用

### 2

#### 避難訓練を開始します

#### 進行係は、タイムスケジュールに沿って状況を付与します

- 情報収集伝達係は、進行係から付与された「災害に関する情報」を収集し、統括管理者へ報告しましょう。
- 統括管理者は、収集した情報を基に、避難行動を判断し、避難誘導係へ避難行動を指示しましょう。
- 情報収集伝達係は、収集した情報を、水位記録用紙やホワイトボードなどに記録しましょう。



クロノロジー

クロノロジーとは、情報を時系列に沿ってホワイトボードなどに書き出し、災害情報を共有し整理する手法のことで、「(1)時間、(2)情報の発信者(機関)、(3)情報の受信者、(4)内容」をどんどん書き出していきます。防災情報の中で特筆すべきことがあればそれも記入します。

#### 記載例

(1)時間	(2)発	(3)受	(4)内 容
〇:〇〇	徳島県	〇〇	〇〇川水防団待機水位超過
〇:〇〇	市町村	〇〇	「高齢者等避難」発令
〇:〇〇	〇〇長	全児童	全児童避難開始の一報

### 3

## 避難確保計画で定めた避難場所に児童を避難誘導します

【フェーズ 2(警戒・避難準備)】では、児童の避難準備と保護者にお迎えの依頼の連絡※をします。なお、保護者への連絡は、児童の避難開始時と避難完了後に行います。

※保護者への連絡方法は避難確保計画に従ってください。

災害時には保護者へ確実に連絡が付くように普段から保護者と協力し、十分な訓練をしておきましょう。また、避難準備の段階では、児童の避難準備と保護者への連絡を同時に行うことがあります。連絡方法については、電話だけでなく、保護者への一斉メール配信などの方法も検討しましょう。



- 【フェーズ 3(児童避難)】では、児童の様子に気を配ると同時に、周辺の危険箇所や車の通行に注意して、安全を確保しながら児童を避難誘導します。



橋を渡る時は、風と川の流れにも注意しましょう



雨で視界が悪くなることにも注意しましょう



水路から、水があふれ出ることもあるため注意しましょう



声かけなどで、訓練に慣れが出ないように工夫をしましょう



避難経路は、道幅がせまく交通量が多い区間は避けましょう



避難経路は、児童が歩き慣れている道を優先しましょう

- 【フェーズ 4(職員避難)】では、逃げ遅れの確認を行い、避難先や連絡先を書いた紙を張り出した後、施設を施錠して、職員が避難を開始します。

## 4

### 避難訓練の内容を映像や写真に記録します

- 観察記録係は、避難訓練の進行状況をビデオや写真に記録します。
- 避難誘導に要した時間も記録し、時間の把握やふりかえりに活用します。
- 情報収集伝達係と避難誘導係の動きを同時に記録できるよう、それぞれの係に一人ずつ観察記録係を配置することが望ましいでしょう。



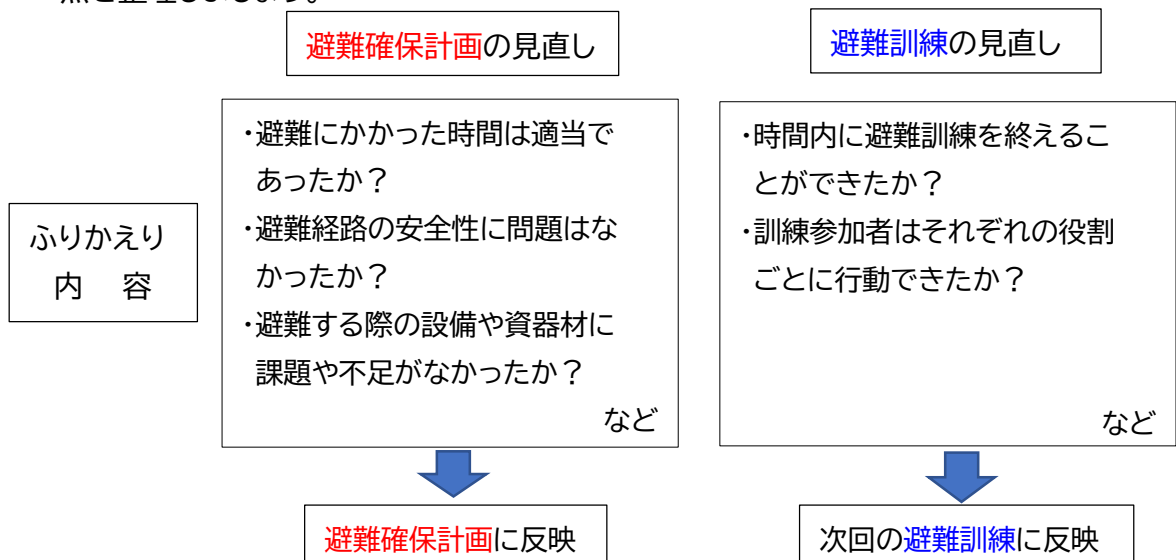
ビデオ撮影による記録

## 【ステップ3】 ふりかえり

### 1

避難訓練の記録を基に、参加者間でふりかえりを行います

- 訓練実施後、速やかにふりかえりを行い、避難訓練で明らかになった課題や問題点を整理しましょう。



- ・役割ごと、グループごとに分かれ、避難訓練時に撮影した映像や写真などを用いて、参加者全員が意見を出しやすくする工夫をしましょう。
- ・避難訓練で良かった点、改善すべき点について意見を出し合いましょう。
- ・避難訓練中に疑問に思ったことや、分からなかったことについて確認しましょう。
- ・ホワイトボードなどを活用して全員の意見を整理しましょう。



例) ホワイトボードを使った意見の整理方法

- ①各自が、避難訓練でグリーンの付箋に「良かった点」を、ピンクの付箋に「改善すべき点」を記入します。
- ②「改善すべき点」の付箋を次の3つに分類します
  - a 自分たちですぐに対応できる事項
  - b 時間はかかるが対応すべき事項
  - c 国、県、町など関係機関の協力が必要な事項
- ③各付箋をホワイトボードの該当する欄に貼り付けます。



例) 貼り付けられた付箋の内容

役割	良かった点	改善すべき点		
		a 自分たちで、すぐに対応できる事項	b 時間はかかるが対応すべき事項	c 国、県、町など関係機関の協力が必要な事項
避難誘導係	全員無事に避難できた。	最後尾を、子供と手をつないで歩いたが、後ろから来る車に気を付けることができなかった。	事務室への連絡を部屋（教室）の電話からかけたら、避難誘導係の行動に余裕ができると思う。	児童の避難に必要な人員が不足しているため、消防団などの連携が必要だと思う。
	保育士みんなで避難経路などの確認をした。	防災頭巾と一緒に防寒着を着ておけばよかった。	保護者への連絡をメール（一斉メールなど）で対応できるようにしてほしい。	
情報伝達係		（電話で避難情報などの受け渡しをした場合）周りに聞こえるように電話スピーカーで話す。		
		数字（の伝達）が必要な場合はメモが必要だが、TELの内容、口頭指示の場合は、メモを書かなくてもよいのでは？		



<各事項の意味>

- 良かった点 → 【今後も継続して実施する事項】
- 改善すべき点
  - a すぐに対応できる事項 → 【訓練後、すぐに改善して実施する事項】
  - b 対応に時間がかかる事項 → 【期間を決めて改善する事項】
  - c 関係機関の協力が必要な事項 → 【関係機関に相談し、改善する事項】

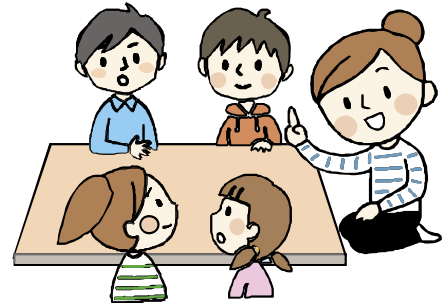


## 2

参加者にアンケート調査や個別のヒアリングなどを行い、意見を集めます

- 訓練参加者を対象に、アンケート調査やレポートの提出、個別ヒアリングを行うなど、意見を集めるための工夫をしてみましょう。
- 参加した児童からも感想を聞いてみましょう。子供の視点から気づくこともあります。

【資料編 P39 参照】

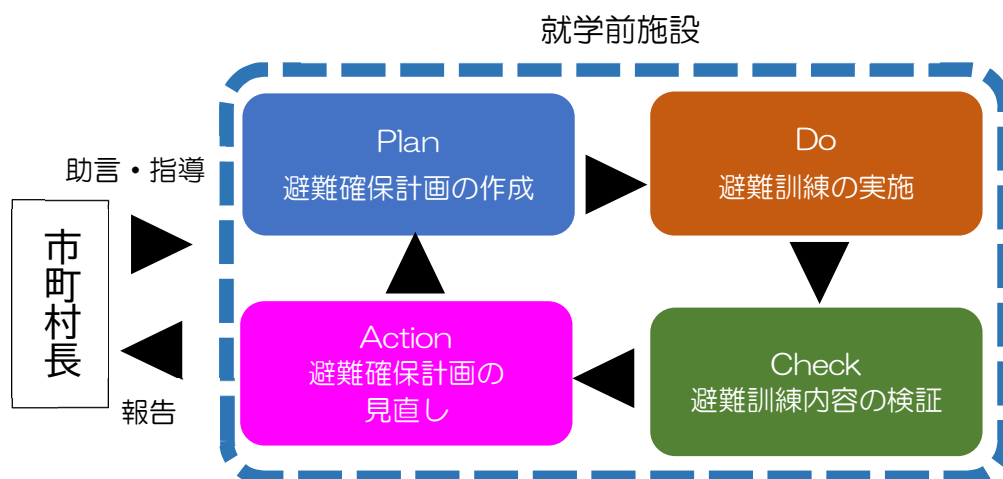


## 3

避難訓練で見つかった課題などを基に、避難確保計画を見直しましょう

- ふりかえりやアンケート、ヒアリングなどで明らかになった課題点などを整理し、解決策を考えてみましょう。
- 一度にすべての課題に対応するのではなく、段階を踏んで、着実に実行できることから取り組んでいきましょう。
- 市町村の助言を得ながら、訓練で得た問題点や解決策を避難確保計画に反映させ、より実効性の高い避難確保計画へと更新していきましょう。

### PDCA サイクルに基づく避難確保計画 構築のイメージ



- 良かった点や課題の内容によっては、保護者にも情報共有や報告を行い、災害や避難に対する意識を持ってもらえるようにしましょう。

## 注意事項

### 1 避難時の安全確保や、児童の健康状態に注意しましょう

- 屋外で避難訓練を行う場合、安全確保とともにイベント保険の活用を検討してみましょう。
- 実動を伴う訓練が困難な場合は、地図を使った図上訓練など、他の訓練の方法も検討してみましょう。
- 不織布マスクの着用やこまめな換気、手洗い、手指消毒、うがいなどの基本的な感染防止対策を行い、訓練を実施しましょう。



### 2 避難訓練の実施方法を工夫しましょう

- 避難訓練のすべての工程を実施することができない場合は、避難誘導だけなど、できる部分から実施していきましょう。
- 最初は、一部の児童(年齢別など)のみで避難訓練を行い、課題点・問題点を洗い出し、その後、内容を充実させながら、段階的に全員参加の避難訓練へ進めていくことも検討してみましょう。
- 予定していたタイムスケジュールどおりに進まない時でも、そのまま続けましょう。タイムスケジュールどおりに進まなかった原因は、次回の課題点として整理しておきましょう。
- 避難訓練のやり方が分からない時は、市町村防災担当課へ相談しましょう。
- 避難訓練が形だけにならないよう、避難訓練のやり方やシナリオの内容を変えて、常に新しい視点を持って避難訓練ができるよう工夫していきましょう。

本当の災害は、シナリオどおりには進みません！





●「就学前施設における避難訓練の手引き(洪水編)」について、より詳しく知りたい方は、同【資料編】をご覧ください

### 就学前施設における避難訓練の手引き(洪水編)

令和4年 3月発行

編集・発行 徳島県 県土整備部 水管理政策課 水災害対策室

〒770-8570 徳島県徳島市万代町1丁目1番地

電話 088(621)2661 ファクシミリ 088(621)2870